

鶴家から大切なお客様へ感謝を込めて

鶴鳴館

鶴家

鶴の恩返し

2020

1月号

弊社にある歴史を物語る仏像

2回にわたり鶴鳴館の歴史について書いてまいりましたが、弊社鶴鳴館が出来た背景には明治政府が海外の賓客をもてなすために建てた鹿鳴館があります。鹿鳴館は旧薩摩藩屋敷跡に建てられましたが、地元にも鹿鳴館のような社交場をつくろうと鶴丸城の二の丸跡で明治30年に創業したのが弊社です。鶴丸城の鶴の文字を頂戴し鶴鳴館となりました。

時が流れ戦後、弊社がホテルを建てる時に土を掘り起こすと中から首のない仏像が出てきたそうです。首がないとかわいそうなので、祖母(小山ミツ)が頼んで新しい首を造ってもらい、つけたそうです。それが右の仏像です。



でも、そもそも、なんで首のない仏像が埋まっていたのでしょうか？

どうやら明治維新後の廃仏毀釈(寺院、仏像、経巻を破棄し、釈迦の教えを棄却すること)が関係しているようです。当時薩摩藩では廃仏毀釈が徹底され寺院1616寺が廃されたそうです。島津氏の菩提寺であった福昌寺さえ廃寺になったそうなので、鶴丸城でも例外なく行われたのだと想像します。

仏像の背中には「石工 山口龍助盛政作 當歳六十七才 弘化三丙午九月」と彫ってあります



首なしだった仏様は、現在弊社の駐車場の一角に神様と一緒におられます。

やはり日本人は他方を切り捨てるのではなく、なんでも取り入れる。“何でも有！”がいいですね。

鶏家の逸品

今号では、お弁当に入っている弊社の人気商品を紹介します。

【カレイの西京焼】

この商品の人気の理由は冷めても硬くならない魚の身に加え、甘すぎず辛すぎずの味加減にあるのだと思います。今までいろいろな魚を試してみましたが、たいていの魚は冷えると硬くなったりゴムのような became なりして高価格帯のお弁当に適した魚がなかなか見つかりませんでした。ですがこのカレイの身は固くならず味か中までよく浸み込むので貴重な食材です。



弊社のカレイの西京焼はカラスカレイを使っております。カラスカレイは脂分と水分が通常のカレイより多いらしく、そのために身くずれしやすいのが難点です。しかしこの身の柔らかさがお弁当には最適なんです。



作り方を申しますと、カラスカレイのフィレールを決められた重さにカットしザルに上げ水けをきります。水切りをしている間に、米味噌と砂糖と清酒を使って西京味噌を作ります。この西京味噌と魚を混ぜ合わせ2日から3日漬け込みます。そして魚についている味噌をよく洗い流し、焼き上げたのが弊社のお弁当に入っています。

機会がございましたら是非一度ご賞味ください。

従業員紹介



竹山 宏次

部署 : ギフト部・配送部
年齢 : 49 歳
血液型 : A 型
趣味 : ドライブ・ラーメン店巡り

まだまだ知名度不足なギフト部ですが、日進月歩お客様に喜んで頂けるよう。頑張っまいます。お中元お歳暮に加え大切なお客様へのお届け物に鶴鳴館鶴家のしゃぶしゃぶをご利用いただくと幸いです。

これが気になる

世の中の気になることを
ピックアップ

電話についてあまり知られていないことを調べてみました。

■「電話の日」は、12月16日

1890年の12月16日に東京と横浜間で初めて電話が開通したことに由来して制定されました。この年の4月から広く一般に募集が始まり東京で設置された電話は115台。交換手を介しての電話でした。かけそば一杯一銭の時代で、東京～横浜間の通話料は5分で15銭だったそうですので、かなり高価な電話料金だったといえるでしょう。

■電話では聞こえない音

電話の周波数帯域は0.3～3.4 KHzです。これは人の話し声が明瞭に聞こえる範囲から決められています。つまりそれ以外の音域の音は電話では伝わりません。例えば、セミの鳴き声、スズムシ、コオロギの鳴き声などは周波数帯域が4～4.5KHzと高いので聞こえません。同じように風鈴の音色なども聞こえなくなるのです。

■空いたらお知らせ 159

電話をかけた相手が通話中の際、いったん電話を切ってから1分以内に[159]に続けて[1]を押して登録しておく、相手の通話の終了を確認した時点でサービス利用者呼び出し、通話の終了を音声で通知するサービスです。事前の申し込みは必要ありません。



お客様の声



味も見た目も良くて配達までしてくれるお店を探していたところ、お呼ばれた家で御社の商品を見て注文しました。

急な用件も電話や配達の方も気持ちよく対応してもらい有難うございます。

味も良く見た目でも楽しめて安心してお客様にお渡し出来ました。

(始良市 S様より)

お褒めの言葉有難うございます。まだまだ至らぬ点多々ございますので、浮かれることなく精進して参ります。

機会がございましたら。またのご注文お待ちしております。



コトのはじまり

コンタクトレンズ

レオナルド・ダ・ビンチは、水を張った容器などに眼をつけるとよく見えるようになるというコンタクトレンズの原理を発見しています。

19世紀の終わり頃、ドイツのFickがガラス製のレンズを不正乱視の患者の眼に装着させることを思いつきました。このことを「Eine kontakt

brille」という本に記載したのですが、この「kontaktbrille」から現在のコンタクトレンズの名前ができたといわれています。

その後、ドイツのMullerがレンズの製作をカールツァイス社に依頼しました。これが本格的なコンタクトレンズの歴史の幕開けとなりました。

初期はガラス素材でしたが、各メーカーが競って素材を開発し、酸素を通して水分を含む素材を用いるようになっていきます。



創業明治30年 仕出し・宅配の鶴鳴館

鶴鳴館

☎ 099-294-2500

受付時間 : 9:00~17:00

配達時間 : 10:00~18:00

鶴家

〒891-1304

鹿児島市本名町 855-2

Mail : yuzo@kakumei.com

URL : <http://cataering-kakumei.com/>



編集担当 : 小山雄三・持留智子